

かけはし

〒669-2321

兵庫県篠山市黒岡5番地

TEL 079-552-1181 (代表)

FAX 079-552-5343 (代表)

《理念》

兵庫医科大学ささやま医療センターは、安全で質の高い医療を通じて、地域社会へ貢献するとともに、よき医療人を育成します。

《基本方針》

- 患者の立場に立ったチーム医療の実践
- 人間性豊かで、優れた医療人の育成
- 科学的な根拠に基づく医療の実践
- 健康増進活動による地域の保健・福祉の推進
- 地域の医療機関との円滑な連携

《患者さんの権利》

- 良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 病気や治療について、わかりやすく十分な説明を受けることができます。
- 診療内容をご自身で選択することができます。
- 診療内容について、他の医師の意見を聞くことができます。
- ご自身の診療情報を入手することができます。
- いかなる状況においても人間としての尊厳が守られます。
- プライバシーは常に保護・尊重されます。
- 患者さんの権利に関する「リスボン宣言」を尊重し、患者さん本位の医療を実現することができます。

◆訪問看護ステーション、訪問介護ステーション、定期巡回・随時訪問介護看護事業所

「デカンショ」の開設について◆

平成27年10月1日から、訪問看護を開始しました。平成28年1月1日に訪問看護ステーション、3月1日に訪問介護ステーションを開設しました。

デカンショと言う名称は、兵庫医科大学職員に公募して決定しました。篠山の良き伝統を大切に、語源のひとつとされる「どっこいしょ！」が地域住民のみなさんと声と力を合わせて生活を守る、という心意気を表していると自負しています。

兵庫医科大学篠山キャンパスは、ささやま医療センターの診療機能、ささやま老人保健施設の病院から在宅復帰までの中間施設機能、ささやま居宅サービスセンターの在宅療養支援機能を円滑に循環させることによって、病気や怪我、その後遺障害、病後の虚弱を抱えながらも住み慣れた場所で、自分らしい生活ができるような支援を目指しています。

国の方針で、これまでのように最初に入院した病棟で、安心して自宅で過ごせるまでの回復を待つ退院という訳にはいなくなりました。地域住民のみなさんには充分にご理解いただき、発症から機能回復あるいは人生の総括まで、療養の場は変わっても切れ目の無いケアを提供できるように、職員一同頑張っています。

これらの機能に加え、4月1日からは、篠山市で初めての試みである定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを開始しました。入院された日から退院への準備が始まると言っても過言ではありません。おひとりおひとりの不安が解消されるよう、お早めに病棟スタッフにご相談ください。

◆消防訓練について◆

去る3月11日(金)、ささやま医療センター及びささやま老人保健施設にて、火災発生時の避難誘導、搬送方法を習得すること等を目的に、消防訓練を実施しました。

当日は篠山市消防本部の協力のもと、医師・看護師・事務職員等が参加し、火災発見・初期消火・火災通報・避難開始・応援者への指示・避難確認と消防本部への報告等のシナリオに沿って、実践的な訓練を行いました。模擬患者の搬送には、普段使い慣れないエアストレッチャーや担架を使用し、訓練参加者は真剣な表情で避難誘導を行っていました。参加者からは、「初めての経験が多く、特に担架を使用したことがなかったため、大変なためになった。」「病室の位置が把握できておらず、うまく避難誘導できなかった。」等の声が聞かれました。

また、訓練終了後には、篠山市消防本部の指導のもと、水消火器を用いた消火器の使用方のレクチャーを受けました。職員は順番に駐車場に設置した標的めがけて放水を行いました。参加者からは、「消火器を持ったことがなかったので、実際に手に取って消火体験ができてよかった。」等の声が聞かれ、有意義な消防訓練となりました。



◆骨粗鬆症・人工関節センターを開設しました◆

平成28年1月に、骨粗鬆症・人工関節センターを開設しました。整形外科医師だけでなく、リハビリテーション科医師・療法士・看護職員・診療放射線技師・管理栄養士などでチームを組み、手術後の円滑な日常生活への復帰やStop at One（骨折を一回だけで食い止める）の合言葉で治療に介入いたします。



高齢化率（65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合）が30%を超えている篠山市・丹波市の医療圏では加齢に伴う関節痛や骨粗鬆症を起因とする軽微な転倒で起こる脆弱性骨折（脊椎圧迫骨折・大腿骨近位部骨折・手首の骨折）をきたす患者さんは年々増加しています。当院においても、変形性関節症に対し疼痛のため日常生活動作に支障をきたす方には手術（人工関節置換術）を提案し、入院いただいた上で手術を行っています。また、圧迫骨折などで疼痛が強い方や脆弱性骨折の方が必要な方には手術を行い、骨粗鬆症に対しては適切に診断を行い、薬物療法やリハビリテーションを提案しております。



当院には、日本骨粗鬆症学会認定医や診療における介入を行う骨粗鬆症マネージャーも複数名在籍しております。人工関節外来や骨折予防外来も併せて開設しておりますので膝関節や股関節（足の付け根）の痛みがひどい方や骨粗鬆症などが気になる方は是非とも外来受診してください。みなさんの病状に合わせた治療方針（何が何でも手術というわけではありません）を提案いたします。

各種学会にも積極的に参加し、当院における試みや治療に対する結果を、日本だけでなく広く海外にも情報発信し、最新の情報を当院においてもアレンジのうえ、新しい手術手技やより良いシステムを導入できるようにスタッフ一同研鑽して参ります。

◆平成28年3月31日付退職医師のごあいさつ◆



平成28年3月31日付で、ささやま医療センターを退職いたしました外科の石川英明です。当院には平成16年10月より勤務し、知らぬ間に11年5ヶ月が経過し、気がつけば今年還暦を迎える歳になりました。当院では在職中に全身麻酔手術症例約1200例、腰椎麻酔手術症例約300例を経験させていただき、大きなトラブルや医療訴訟もなく、無事に務め終えることができましたが、これも当院各科医療スタッフと、共に頑張ってくれた情熱に燃える若手外科医の努力の賜物と感謝しております。

患者さんの最期に際し、最愛の方の命を救うことができなかつたにもかかわらず、ご家族から感謝のお言葉を頂戴した時ほど、医者としてつらく、またこれほどうれしいことはありません。当院退職後も近隣の岡本病院で引き続きみなさんの健康管理と地域医療に貢献したいと思っておりますので、これからもよろしく願いいたします。

兵庫医科大学 地域総合医療学講座 准教授
外科診療科部長 石川 英明



平成22年より6年間お世話になりました。在職中は主に骨折外傷、変形性関節症、骨粗鬆症の診療を行ってまいりました。病院へ来る患者さんは不安を抱えている方が多いので、しっかりとお話（時には世間話や笑い話）をして、笑顔で診察室から出てもらいたいという一心で診療を行ってまいりました。また、入院患者さんに対しても、お話をコミュニケーションを取ってまいりました。

近年、医療は日々進歩し、新しい薬や治療法等が発表されています。しかし、医療とは医師と患者さんの信頼関係があつてはじめて成立するものと考えております。これは私の信念でもあります。

篠山を離れましても、この信念のもと診療に取り組もうと思っております。6年間ありがとうございました。

兵庫医科大学 地域総合医療学講座 講師
整形外科医長 小倉 宏之



次回発行予定 平成28年10月